

「沖縄21世紀ビジョン」(骨子案)

はじめに

[なぜ今、ビジョンが必要なのか]

我が国は、本格的な少子高齢化・人口減少社会が到来するなか、社会経済の急速なグローバル化への対応を迫られるなど、大きな転換期を迎えており、沖縄も決して例外ではない。

国民の多くが、現状への不満と将来への不安を抱いたまま、閉塞感に陥っている。いまこそ、次の世代をしっかりと見据えて、真の豊かさを追求する長期的な戦略の構築が求められている。

一方、地方分権改革が進展し、道州制議論が活発化するなか、沖縄振興計画が2012年3月に終了することや、大規模な米軍基地の返還が迫っていることなど、本県を取り巻く環境も大きく変化しつつある。

こうした変化を絶好の機会として捉え、果敢に挑戦していくとの決意をもって、沖縄の進むべき方向性の議論を開始しなければならない。

『基本的な考え方』「1(2)21世紀ビジョンの必要性」より

変化の激しいときこそ、地域にあっては長い目でものを見なければならない。新たな枠組みが未成熟なまま、古い伝統的なものが崩壊していくと、地域は衰退していくだけである。

このことを踏まえ、沖縄の将来像を描くうえで、何を残し何を变えていくかを明らかにし、課題と目標を県民全体で共有していくことが重要である。

豊かな自然や歴史、伝統・文化など、失われつつある沖縄の良さを守り継承するとともに、新しい時代に対応した社会システムの構築や地域の活性化につながる産業経済構造の変革などに、積極的に取り組んでいく必要がある。

沖縄の進路を切り開き、同時に閉塞した我が国経済社会の活路をも探るような思い切ったビジョンを策定するものとする。

ありたい沖縄、あるべき沖縄を示すと、現実の社会が別の方向に行った場合、軌道修正ができる。

『基本的な考え方』「1(3)策定の視点」より

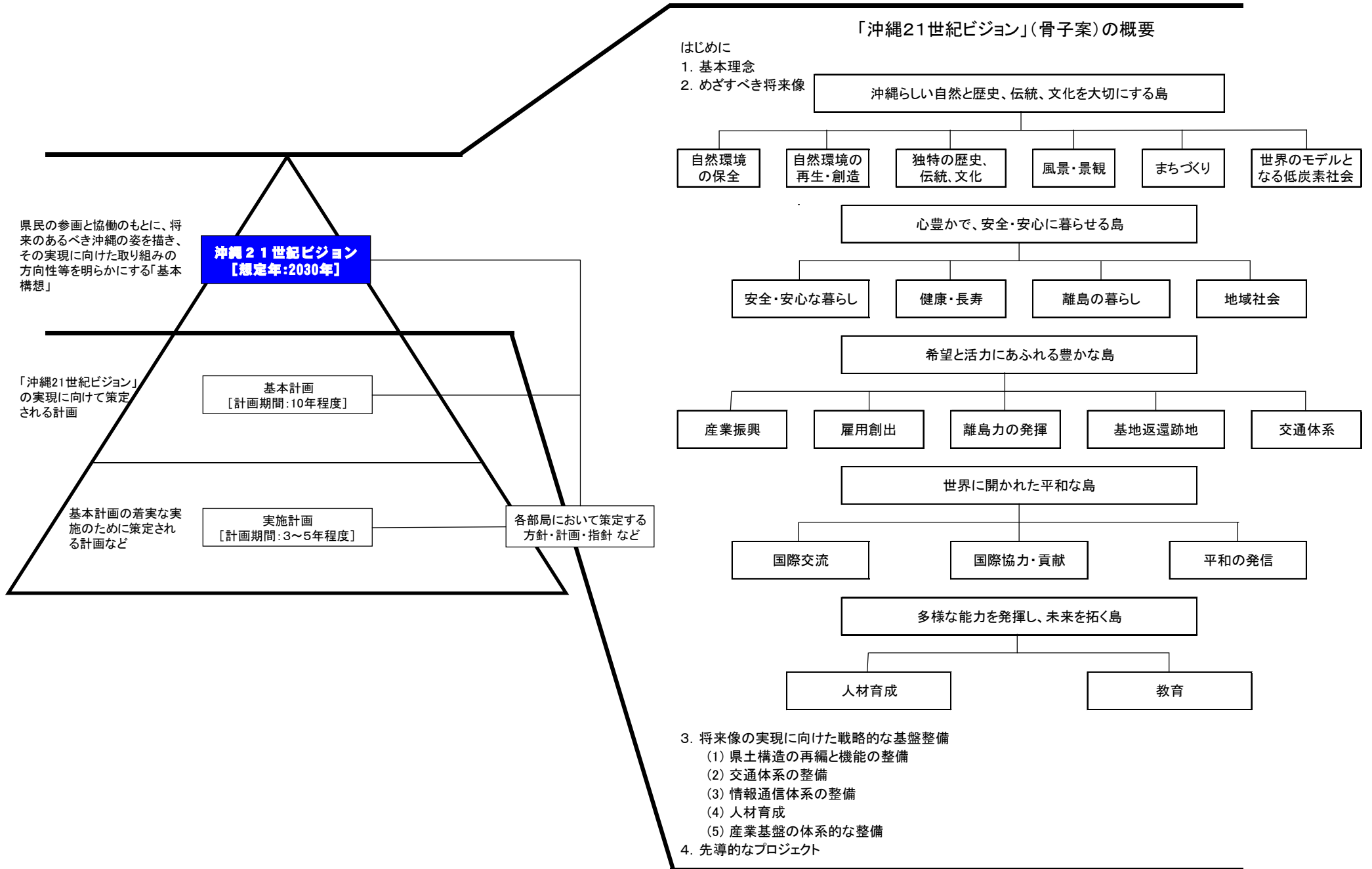
[21世紀ビジョンとは何か]

21世紀ビジョンは、県民の参画と協働のもとに、将来(概ね2030年)のあるべき沖縄の姿を描き、その実現に向けた取り組みの方向性と、県民や行政の役割などを明らかにする基本構想である。

本ビジョンは、沖縄県として初めて策定する長期の構想であり、沖縄の 将来像の実現を図る県民一体となった取り組み及びこれからの県政運営 の基本的な指針となるものである。

『基本的な考え方』「1(1)21世紀ビジョンとは」より

[図] ビジョンと基本計画等との関係



1. 基本理念

時代の変遷や社会の変化に対応・適応し、「人間を大切にする」沖縄の文化を守り、沖縄の人々の「くらし(厚生)」を最大にする。
世界一のくらし良さを目指す。

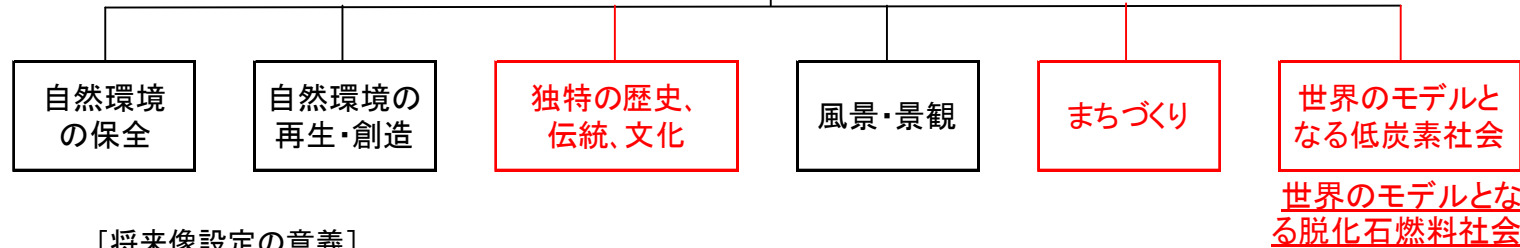
宣言性
思想性
対話の継続
(時代の変化に応じて見直しを検討)

2. めざすべき将来像

[めざすべき将来像]

沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島

[構成要素]



[将来像設定の意義]

(沖縄らしい自然を大切にする島)

県民意見の多くが沖縄の将来像として「美しい自然環境」をあげており、ビジョンにおいて重要なポイントである。

沖縄の自然と風景は、人々の生活の舞台として重要である。

また、沖縄に暮らす人々の誇りの源となっている。

さらに、沖縄の魅力の一つとして国内外から多くの観光客をひきつけ、大きな経済効果をもたらしており、沖縄の重要な資源となっている。

世界的に見ても、東洋のガラパゴスとも称されるほど希少種が多く生息しており重要な地域である。

沖縄の自然、文化の持つポテンシャルをしかと認識し、発展に資する現代におけるソフトパワーの意義を示す。

その一方で、島嶼地域という特性から環境は脆弱であり、貴重な資源である自然や風景を、劣化させることなく、次世代にどう引き継いでいくかを検討することが現世代の責務である。

(歴史、伝統、文化を大切にする島)

沖縄の歴史、伝統、文化は連綿と受け継がれ、人々の生活の中にしっかりと息づき、切り離せないものとなっている。

また、伝統文化を拠り所として、世界中のウチナーンチュの「沖縄アイデンティティ」を形成している。この「沖縄アイデンティティ」は、沖縄に暮らす人々の誇りの源ともなっている。

さらに、沖縄の魅力の一つとして国内外から多くの観光客をひきつけ、大きな経済効果をもたらしており、沖縄の重要な資産となっている他、我が国、ひいては世界文化の多様性の一角を担っている。

沖縄の文化の現代、未来におけるポテンシャル

人が原点 人を昇華させる文化

衣食住足りて後は文化、芸術等の精神活動に極端な格差のない島

その一方で、伝統文化の担い手が不足しており、特に、人口減少・高齢化が著しい離島においては危機的な状況にある。沖縄の伝統文化を、次世代にどう引き継いでいくかを検討することが現世代の責務である。

①めざすべき将来像 [具体的な姿]	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
<p style="color: red; font-weight: bold;">沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切に する島</p> <p>豊かな自然の残る美ら島では、青い海と自然の海岸線がどこまでも続き、自然海岸と平行して連なるサンゴ礁により、イノー(礁池)の穏やかさが守られている。美ら島には、世界的にも貴重な生物が多く生息し、生物の多様性が守られている。</p> <p>こうした独特の自然や風景を求めて、国内外から多くの観光客が訪れ、癒しの風土の中で心身ともに健康になっている。多くの観光客が訪れることで、沖縄に暮らす人々に大きな経済効果をもたらしている。</p> <p>また、多くの人々を魅了する自然と風景は、沖縄に暮らす人々の誇りの源ともなっており、物心両面での豊かさをもたらしている。</p> <p>琉球王朝時代より培われてきた伝統芸能や伝統工芸、食文化等が連綿と受け継がれ、人々の生活の中に息づいている。人々にとって、この独特の文化や習慣は誇りの源となっており、沖縄に暮らす人々のみならず、世界中のウチナーンチュの沖縄アイデンティティを形成している。</p> <p>また、広大な海域に点在する多くの島々は、それぞれ独自の伝統文化を持ち、それぞれの島の多様な個性は、沖縄文化を奥深いものとし、この多様性が沖縄文化の価値を高めている。人々は文化を守り、継承するのみならず、新たな文化として創成させている。</p> <p>歴史の中で培われてきた家族や地域との絆を大切に する文化や習慣は、肝心、イチャリパチョーデー、ユイマール等の「沖縄の心」として受け継がれ、人と人との絆の強い社会が形成されている。人々は、何よりも人を大切に、心の豊かさに価値を見出している。</p>	自然環境の保全	<p>○島嶼地域の脆弱性に、どのように配慮すべきか。</p> <p>○生物の多様性を、どのように守るべきか。</p> <p style="color: red;">○特に、自然環境の保全を図るべき地域については、聖域化も検討すべきか。</p>	<p>●ゾーニングやキャリングキャパシティ、保全のためのルール等を含め、先進的な環境共生・循環型社会モデルを構築する。</p> <p style="color: red;">●聖域の定義を明確にした上で、特定地区や特定離島に聖域(サンクチュアリー)を設定する。</p>
	再生・環境創造の自然環境	<p>○本土復帰後の急速な社会資本の整備等の開発によって失った自然環境を、どう取り戻すべきか。</p>	<p>★キャリングキャパシティ等を踏まえ、「自然再生型」「環境創造型」の事業を計画的に導入する。</p>
	独特の歴史、伝統、文化	<p>○歴史・伝統文化等をどう守り・継承していくか。</p> <p style="color: red;">○大切にすべき県民性を、どのように守り、活かしていくか。</p> <p style="color: red;">○新たな文化を、どう創成していくか。</p>	<p>●歴史・伝統文化等を守るための仕組みと併せ、世界に発信する仕掛けを構築する。</p> <p>●歴史・伝統文化等を地域資源として保全しつつ持続的に活用していくことで、継承・発展を図る。</p> <p style="color: red;">●歴史・生活文化を踏まえつつ、肝心、イチャリパチョーデー、ユイマールなど県内外から 沖縄の良さと認識される県民性を、地域社会をはじめ様々な分野で活かしていく。</p> <p style="color: red;">●人材育成システムの構築や育成機関の充実等を図る。</p>
	風景・景観	<p>○沖縄らしい風景を、どのように考え、どのように活用していくべきか。</p>	<p>●歴史・伝統的背景を踏まえつつ、将来に向けて保全・創造していく。</p> <p>●快適性や安全性などの観点も含め、時間とともに風景や景観の価値が高まるようなまちづくりを進める。</p>

[実現効果]

(沖縄らしい自然を大切にする島)

沖縄で暮らす人々の生活に潤いと安らぎをもたらす。
独特の自然と風景は、人々の誇りの源となっている。
独特の自然と風景は、沖縄の資源として経済的な効果をもたらしている。
来訪者に癒しを与え、国内外の人々の心身の健康に寄与している。
世界のエコアイランドとして、地球温暖化など環境対策で技術貢献している。
ソフトパワーによるビジネスの具現化でさらに進んだ先進国、ポスト先進国になれる。

(歴史、伝統、文化を大切にする島)

沖縄の独特な伝統文化は、人々の誇りの源となっている。
世界中で暮らすウチナーンチュの沖縄アイデンティティの拠り所となっている。
また、琉球王朝時代から受け継がれてきた沖縄の資産として、経済的な効果をもたらしている。
さらに、沖縄の伝統文化は、我が国、ひいては世界の文化の多様性の一角を担っている。

[めざすべき将来像]

心豊かで、安全・安心に暮らせる島

[構成要素]

安全・安心な暮らし

健康・長寿

離島の暮らし

地域社会

[将来像設定の意義]

県民意見では、沖縄の将来像として「美しい自然環境」に次いで、「安全・安心な暮らし」をあげる県民が多く、ビジョンにおいて重要なポイントである。

人々の暮らしにとって、安全・安心は不可欠な要素である。

特に、島嶼地域においては、離島の教育、医療福祉、自然災害等の確保が重要な課題である。

また、イチャリパチョデー、ユイマールに代表される「沖縄の心」に支えられてきた地域社会は、都市化の進行等により変容しており、地域社会をどう再生するかも重要な課題である。

地域社会の変容は、安全・安心の確保に大きな影響を与え、両者は一体として検討すべき課題である。

離島の人口減少、少子高齢化は深刻であり、離島生活の安全・安心に資するユニバーサルデザインの確保に向けて、島嶼地域全体でコストを負担するなど「ユイマールモデル」の検討が、今こそ必要である。

世界中の島嶼地域に対する先進的なモデルとして発信できる可能性もある。

	①めざすべき将来像 [具体的な姿]	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
<p style="writing-mode: vertical-rl; color: red;">心豊かで、安全・安心に暮らせる島</p>	<p style="color: red;">沖縄は島嶼性という固有の環境を活かし、地域の宝・財産、文化資源を地域全体で共有している。</p> <p>どの島で暮らしていても、人々は平和で安全に、そして快適に暮らしている。</p> <p>人々は、地域で取れた、人のぬくもりが実感できる産物を食し、安全で、安心な生活を送っている。</p> <p>また、一人ひとりが生きがいを持ち、暮らしたい島で働き、十分な医療が受けられ、文化的な生活を送っている。</p> <p>どの島で暮らしていても、安心して子供を産み育てることができ、子供達は「島の宝」として大切にされている。子供達は希望と意欲にあふれ、社会の中で十分な教育を受け、健全に育っている。</p> <p>一人ひとりが豊かな心と健康な体を持ち、世界一の長寿を誇っている。</p> <p>それぞれの島の伝統文化は、沖縄文化として世界に発信され、国内外の多くの人々を魅了し、「健康・長寿の島」を支える食文化など沖縄文化を求めて、国内外から多くの観光客が訪れてる。</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; color: red;">安全・安心な暮らし</p>	<p>○安心して働ける雇用環境をどう整備するか。</p> <p>○安心して子どもを産み育てる環境をどう整えるか。</p> <p>○社会保障や保健医療制度についてどう考えるか。</p> <p>○災害への対応や治安の維持等をどう図っていくか。</p> <p>○グローバル化の進展に伴う感染症などのリスクにどう対応していくか。</p> <p>○米軍基地から派生する事件、事故等が後を絶たないことは大きな課題。</p>	<p>●働きたい人が働きたい職につける多様な雇用の場の確保や、仕事と生活の調和に配慮した職場環境など、労働者が安心して働ける環境整備を進める。</p> <p>●妊婦に対する保健医療体制の充実や地域における子育て支援、保育サービスの充実など社会全体で子育て等を支援する環境を整備する。</p> <p>●社会保障、保健医療システム等の再設計により保健・医療・福祉の充実を図る。</p> <p>●地域コミュニティの再生等により防災・治安機能の向上を図る。</p> <p>★国際的な研究機関の誘致・創設により、地球規模の課題の解決に向けた国際貢献・協力の拠点を形成する。</p> <p>●米軍の綱紀粛正の徹底、地域協定の見直し等</p>
			<p style="writing-mode: vertical-rl; color: red;">健康・長寿</p>	<p>○健康・長寿の沖縄を、どのように復活するか。</p>
		<p style="writing-mode: vertical-rl; color: red;">離島の暮らし</p>		<p>○離島の暮らしをどう守り発展させていくか。</p>

	①めざすべき将来像	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
心豊かで、安全・安心に暮らせる島	<p style="text-align: center;">[具体的な姿]</p> <p>歴史の中で守り育んできた「沖縄の心」は、地域社会の一体感を醸成しており、相互に協力し合うユイマール社会が形成されている。 「沖縄の心」に支えられた社会では、一人ひとりが地域のために何ができるかを考え、地域づくりに積極的に参加する共助・共創型の地域社会が実現している。</p>	地域社会	<p>○地域社会をどのように再生すべきか。</p> <p>○地域のネットワークをどのように形成すべきか。</p> <p>○暮らしの満足度など豊かさを、どのように考えるか。</p>	<p>●地域の人材の有効活用や住民の協働による地域づくりを通して世代間の交流を深め、コミュニティの再生を図る。 ●地域の文化資源等を自ら発見し、磨き上げることで、地域の宝・財産として共有する。</p> <p>●地域住民と行政との連携により、共助・共創型のまちづくりを進める。</p> <p>●物質的な豊かさのみならず、生活の質や福祉の充実度を含め、県民の幸福度が高まる社会の構築を目指す。</p>

[実現効果]

沖縄で暮らす人々の生活に安らぎと生きがいをもたらす。
特に、離島での安全・安心な暮らしは、離島の人口減少、少子高齢化の進行に歯止めをかけ、「離島力」を高めている。

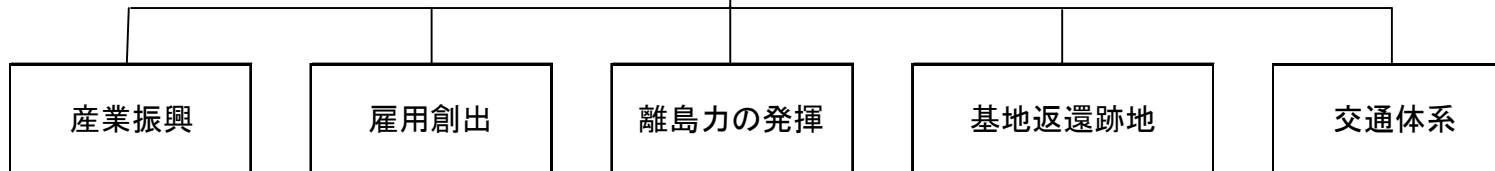
人と人との絆、地域社会の繋がりが見直され、コストをかけることなく安全・安心な暮らしが実現する。
地域社会の再生により、共助・共創型の社会が形成され、行政コストも低下する。

島嶼地域のユニバーサルデザインが確保され、地域の一体感、絆がより深まり、地域力が高まる。
島嶼地域の安全・安心モデル「ユイマールモデル」として、世界中に発信され、同様の島嶼地域の発展に資する。
安全・安心な島として、沖縄の新たな魅力となり、国内外から多くの観光客を引き付ける。

[めざすべき将来像]

希望と活力にあふれる豊かな島

[構成要素]



[将来像設定の意義]

沖縄は数少ない人口増加県であり、特に若者が多いことが大きな特徴である。この点は、人口減少社会に突入している日本の現状に鑑みれば、潜在的には大きな沖縄の強みであり、その強みをどう活かすかが重要である。また、大規模な基地返還が予定されており、返還跡地をどう有効活用するかも重要である。

その一方で、沖縄は、失業率が全国一、県民所得が全国最下位の地域であり、産業の振興、雇用の創出は重要な課題である。

また、40余の有人離島を抱える島嶼地域であり、少子高齢化、人口減少が著しい離島の振興は重要な課題である。

沖縄は全国で唯一、鉄道を持たない地域である。少子高齢化社会を迎えるに当たり、軌道系交通機関の導入を含む交通体系の抜本的な見直しが必要である。

大きな転換期を迎え、真の豊かさを追究する長期的な戦略をどう構築していくか。次世代を見据えて、その道筋の先鞭を付けることが現世代の責務である。

<p>①めざすべき将来像</p> <p>[具体的な姿]</p>	<p>構成要素</p>	<p>②実現に向けた課題</p>	<p>③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)</p>
<p>人々は心の豊かさだけでなく、経済的な豊かさをも実感しており、希望を持って生活している。</p> <p>国への過度な財政依存から脱却し、民間主体の自立的な経済社会が形成されている。</p> <p>ヒト・モノ・カネが域内で循環しており、経済と環境との調和も図られ、活力にあふれた循環型の経済社会が形成されている。</p> <p>地域資源を活用した地場産業が発展し、沖縄経済の主役となっている。</p> <p>人々の間には「地産地消」の大切さが浸透し、地域の人々が地場産業の経営基盤を下支えしている。</p> <p>また、社会貢献型ビジネスが盛んであり、これに従事する人々は、生活するに十分な収入を得ながら、地域貢献できる喜びを感じている。</p> <p>沖縄の優位性を図る分野への積極的な参入や地理的な特性の活用により、科学技術の振興と新産業の創出等が図られ、国内のみならず、アジア・太平洋地域との交流人口も増大し、外需をも取り込むことで地域経済が発展している。</p> <p>内需と外需とがバランス良く取り込まれた経済社会では、所得や就業機会の格差が少なく、人々は癒しの風土の中で、精神的にも、経済的にも豊かに暮らしている。</p> <p>「住みよい島は呼びよい島」であり、国内外からの憧れの地ともなっており、多くの観光客が訪れ、経済社会の好循環が成立している。</p> <p>希望と活力にあふれる豊かな島</p>	<p>産業振興</p>	<p>○国内外から収入を獲得するための輸出型産業をどのように育て、経済のエンジンとするか。</p> <p>○域内循環型産業をどのように育て、地域の安定・発展に資するか。</p> <p>○アジアの経済発展を沖縄の発展のためにどのように活用するか。</p> <p>○未利用エネルギーを含む海底資源等をどう開発するか。</p> <p>○あるべき産業構造について、どう考えるか。</p>	<p>●世界の需要を意識した県独自の戦略的な取り組みを進め、観光産業の可能性や多様性をさらに拡充する。</p> <p>★国内外のシニア層及び富裕層を対象とした医療・健康サービス産業との連携や、リサーチ&リゾートを進める。</p> <p>●自然環境の保全を重視する地域とのゾーニングを明確にしつつ、本島西海岸エリアを都市型オーシャンフロントリゾートとして集中的に開発を進める。</p> <p>●観光振興や環境保全の財源確保のため、観光税の導入を検討する。</p> <p>●ソフトウェア開発・コンテンツ制作など情報通信産業の高度化・多様化を進める。</p> <p>●農林水産業の品質面・健康面の優位性を確立するとともに、地産地消のほか、観光や健康食品産業等の連携を進める。</p> <p>●優位性のある地域資源を持続的に活用するための戦略的な地域産業振興方針を策定し、計画的な取り組みを進める。</p> <p>★沖縄の優位性や地理的特性、将来の市場の発展性等を加味し、科学技術の振興や新産業の創出など、戦略的な産業振興を推進する。</p> <p>●物流やコンベンションなどアジアとの交流に資する交流産業の振興を図る。</p> <p>●アジア・太平洋地域との交流人口を増大させ、人口減少に影響を受けにくい地域を構築する。</p> <p>★大学院大学を核とした知的クラスターの形成を図る。</p> <p>★海底資源等については、低炭素社会の実現や環境関連産業の振興に向け、国の支援の下、開発を進める。</p> <p>●観光産業を主要産業とし、情報通信関連産業および第一次産業や環境関連産業等との連携による産業振興を推進する。</p>

	①めざすべき将来像	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
	[具体的な姿]			
希望と活力にあふれる豊かな島	<p>若者から高齢者まですべての人々が、安心して職を得て、働くことができる環境が整っている。特に、若者に対しては、それぞれの能力に応じた多様な進路や職場があり、自分に合った仕事を求めている。</p> <p>失業しても、働く意欲と能力があれば、すぐに新しい仕事が見つかる安定した雇用環境が整備され、チャレンジしやすい仕組みが確立している。</p> <p>離島では、<u>第一次産業を中心として観光産業など他産業と連携した総合的な産業が展開されており、島内の需要を満たすとともに、充実した情報通信基盤を活用して、国内外に移輸出することで、収入を得ている。第一次産業は観光産業との融合が図られることで、魅力的な就業の場ともなっており、経済的にも、精神的にも豊かな生活が営まれている。</u></p> <p>こうした島での暮らしは、国内外の人々の憧れとなっている。</p> <p>沖縄は、国益を担う地域として、国との協力の下、独自の離島振興策を進めている。</p> <p>また、近隣諸国と積極的に独自の国際交流を行っている。それぞれの島の自立的な振興策は、人々のユイマール精神の支えもあり、沖縄全体としての希望と活力につながっている。</p> <p>嘉手納基地より南の在沖米軍基地の返還が実現している。</p> <p>返還が実現した基地跡地では産業振興が進む一方で、エコアイランドにふさわしい美しい街並みが形成されている。</p> <p>基地跡地は、かつて得られていた収入を補って余りある程の経済効果をもたらしており、持続的に発展する島を象徴する地域となっている。</p>	雇用創出	<p>○少子高齢化の進展による労働力人口減少の影響をどのように考え、どう対応していくか。</p> <p>○頭脳流入をどのように進めていくか。</p>	<p>●働く意欲と能力のある高齢者など、各世代の就業環境の整備を図る。</p> <p>●優秀な事業家等の受け入れ環境の整備を図る。</p>
		離島力の発揮	<p>○広大な海域を持つ離島の重要性をどう位置づけるか。</p> <p>○地域資源をどのように産業化するか。</p> <p><u>○地域の担い手をどのように育成するか。</u></p> <p>○雇用の場をどのように創出するか。</p> <p>○離島の交通問題をどう考えるべきか。</p>	<p>★排他的経済水域の確保や豊富な海洋資源の存在など日本の国益を担う地域として、<u>国の対応もしくは国の協力・支援を導入する。</u></p> <p><u>★海洋島しょ圏としての価値の再確認を行う。</u></p> <p><u>★情報通信基盤を活用した離島力の発信と潜在能力の顕在化を図る。</u></p> <p>●交流人口を増大させ、地域の産業や雇用の場の創出を図るとともに、<u>必要な人材の育成を進める。</u></p> <p>★離島発展のため、低料金の航空網を構築する。</p>
		基地返還跡地	<p>○2030年の在沖米軍基地の状況をどう考えるか。</p> <p>○県全体の発展のために基地返還跡地をどのように活用すべきか。</p> <p>○計画的かつ円滑な跡地利用をどう進めるか。</p>	<p>●将来的には基地のない沖縄を目指す、2030年時点では、現在合意されている基地が返還されていることを想定する。</p> <p>★アジアの経済発展やグローバル化の進展に対応した産業振興や居住空間の確保、<u>沖縄を拠点とする新たな国際貢献推進等に活用する。</u></p> <p>★新たな跡地利用制度を創設する。</p> <p><u>●返還跡地利用のロードマップを作成する。</u></p> <p><u>●環境の復元・再生を含む価値創造型(時間とともに価値が高まる)のまちづくりを目指す。</u></p>

	①めざすべき将来像	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
	[具体的な姿]			
希望と活力にあふれる豊かな島	<p>沖縄本島内には、南北に縦断する軌道系交通が導入されている。この軌道系交通機関を幹線として、コミュニティバスが走っており、多くの人々が、安くて便利な公共交通機関を利用している。</p> <p>公共交通機関の充実により、街を走る自動車の数が減り、交通渋滞がなくなり、さらには、事故も減り、安全な社会が実現している。</p> <p>高齢者等の交通弱者や国内外からの観光客も(東)、安くて便利な公共交通機関を利用し、外出を楽しんでいる。街を走る自動車は、その多くがエコカーで、環境先進地域として国内外から注目を集めている。</p>	交通体系	<p>○公共交通ネットワークのあり方についてどう考えるか。</p>	<p>★県土構造の再編を視野に入れつつ、軌道系交通機関の導入を含む「<u>21世紀の課題解決を先導する総合交通体系</u>」の整備を進める。</p> <p>★離島を含む東アジア地域との国際交通ネットワークの構築を進める。</p>

[実現効果]

人々に、経済的な豊かさをもたらす。
 失業者がいなくなり、社会が安定する。
 少子高齢化、人口減少が著しい離島の振興が図られることにより、国境離島を含む離島が安定的に維持される。
 国境離島の維持により、排他的経済水域の確保など国益に貢献できる。
 基地返還跡地が有効に利用されることにより、米軍基地の全面返還の機運が盛り上がる。
 社会的弱者も利用しやすい公共交通機関が整備されることにより、人々の生活の利便性が向上する。

[めざすべき将来像]

世界に開かれた**平和な島**

[構成要素]

国際交流

国際協力・貢献

平和の発信

[将来像設定の意義]

地理的特性を活かす上で、国際交流、国際協力・貢献をいかに図るかは、重要な課題である。
 歴史的背景を踏まえた平和の発信と伝統、文化等を背景とする沖縄の持つソフトパワーの活用等は、重要な課題である。
アジア、とりわけ中国との歴史的関係性の蘇生を通じた国際交流が展開され、沖縄の比較優位であるソフトパワーによる国際交流やビジネスが展開される。

	①めざすべき将来像 [具体的な姿]	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
世界に開かれた交流と共生の島	<p>琉球王朝時代より受け継がれてきた伝統文化に加え、東南アジア諸国との交易など歴史の中で培われてきた開放的で、国際色豊かな文化的風土が脈々と息づいている。こうした風土がアジアの人々を引き付け、ヒト、モノ、カネ、文化など様々な面での交流が盛んに行われている。</p> <p>また、歴史の中で培われてきたホスピタリティに溢れる「沖縄の心」は、日本とアジアとの架け橋となり、人種や世代の垣根を超えた交流が行われている。</p>	国際交流	○国際的な相互依存が進む中で、どう交流を図っていくか。	<p>★島嶼地域という沖縄の特性を活かした先進モデルの構築等により交流を拡大・深化させる。</p> <p>●世界のウチナンチュ等のネットワークを活用する。</p> <p>●JICAの一層の活用を図る。</p>
	<p>沖縄の歴史的・文化的特性を活かした国際交流が盛んな一方で、地球温暖化対策など環境技術を世界に発信する先進地域としての国際的な地位も確立しており、国益、地球益に貢献している。</p> <p>また、世界最先端の研究を行う大学院大学を中核として、国際的な研究機関が集積し、世界をリードする研究者達は、沖縄の豊かな自然環境と癒しの風土の下、多くの研究成果を残し、世界中に発信されている。</p> <p>さらに、国際的な研究者による国際人材ネットワークも形成され、世界から注目を集める国際協力・貢献の拠点となっている。</p>	国際協力・貢献	<p>○アジア・太平洋諸国等のニーズや国際的課題に対する貢献をどう考えるべきか。</p> <p>○沖縄が貢献できることは何か。</p>	<p>★アジア・太平洋地域との交流ネットワークを構築し、世界規模の課題解決に向けた国際貢献・協力拠点等の形成を図る。</p> <p>★島嶼国に対する情報発信や技術移転を含め協力・貢献を進める。</p>
	<p>人々は、沖縄が焦土と化した悲惨な歴史を風化させることなく受け継ぎ、命どう宝に代表される平和を希求する「沖縄の心」を世界に発信している。また、人々は世界平和の発信拠点としての役割を強く意識おり、こうした「沖縄の心」に基づく取り組みは、国内外より広く認知され、国際紛争や対立の緩衝拠点として、国連機関等が集積にもつながっている。</p>	平和の発信	○平和を希求する心をどのように守り、発信していくか。	★東洋のジュネーブ(アジアの緩衝地)を目指し、国連など国際機関の誘致を図る。

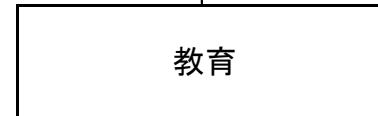
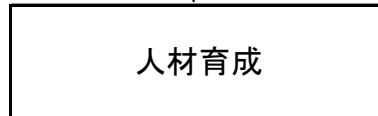
[実現効果]

地理的特性を活かした国際交流、国際協力・貢献拠点が形成される。
平和の発信や沖縄のソフトパワーの活用により、国際的な地位が高まる。
沖縄が世界中より注目されることにより、人々の「沖縄アイデンティティ」がより強くなる。

[めざすべき将来像]



[構成要素]



[将来像設定の意義]

歴史の中で培われてきた県民性は評価が分かれるものの、大切にすべき県民性を検討し、共有することが必要である。
資源の乏しい島嶼地域においては、人材の育成が重要な課題であり、教育のあり方を含め、検討することが現世代の責務である。

	①めざすべき将来像 [具体的な姿]	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
<p style="color: red;">多様な能力を発揮し、未来を拓く島</p>	<p>人々は、島嶼地域「沖縄」において、人材の育成が重要との考えを共有している。 こうした考えの下、沖縄がめざすべき方向を見据え、戦略的な人材の育成が行われている。戦略的な育成方針により、多様な分野で、全国、世界で通用する多くの人材を輩出している。 特に、語学教育には力を入れており、高校を卒業するまでには、二カ国語以上が話せるようなカリキュラムが生まれ、世界で活躍できる人材を送り出している。</p> <p>沖縄の子ども達の学力や進学率など教育水準は全国に比べて高く、トップクラスを維持している。 また、誰もが、いつからでも、学びたい時に学べる環境が整っており、学べる喜びをいつまでも享受している。 さらに、何度でも新しいことにチャレンジできる環境が整っており、人々は失敗を恐れず、新しいことに挑戦している。このような再チャレンジしやすい環境の下、一人ひとりが個性と能力を存分に発揮し、生きがいを実感し続けている。</p>	<p>人材育成</p>	<p>○各分野を担う人材をどう育成していくか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●質の高い沖縄観光の実現に向け、沖縄観光をリードする多様な人材育成や同時通訳等の専門的な人材育成等を図る。 ●情報通信産業の高度化・多様化に向け、スキルアップを含め、高度な人材の育成を図る。 ●バイオ産業や健康関連産業など新たな産業の振興に向けた人材の育成を図る。 ●優位性のある地域資源を活用した地場産業の振興につながる人材育成の充実強化を図る。 ★環境・エネルギー・医療など、世界に貢献する最先端産業の振興に向け、必要な人材育成システムを構築する。 ★大学院大学の活用によるフロントランナーを育成する。
			<p>教育</p>	<p>○学校教育の目指すべき方向性をどうすべきか。</p> <p>○地域社会における教育はどうあるべきか。</p>

[実現効果]

大切にすべき県民性を共有することで、地域の一体感が強まり、地域力の向上に資する。

全国、世界で活躍できるような人材を育成することで、沖縄の発展に資する。

沸騰するアジア市場での沖縄人の活躍につながる。

全国、世界の各分野において、沖縄が輩出した人材が多様な能力を発揮することで、次世代の沖縄を担う子ども達の自信につながる。

3. 将来像の実現に向けた戦略的な基盤整備

(1) 県土構造の再編と機能の整備

(2) 交通体系の整備

(3) 情報通信体系の整備

(4) 人材育成

(5) 産業基盤の体系的な整備

4. 先導的なプロジェクト

那覇空港の拡張と、アジアのハブ空港化(仁川、上海等のセカンダリー空港)